



神山町の学術調査によせて

徳島県立図書館長 大 平 明 宏

平成11年7月27日から8月5日にかけて行われた神山町総合学術調査の報告が、阿波学会紀要第46号としてまとめられ、発行されることとなりました。

総合学術調査は、阿波学会と県立図書館の共催で昭和29年から毎年1市町村を選んで行われており、神山町では今回で2回目の調査になります。前回は、昭和50年に行われ、12班59名から16本の調査報告が寄せられ、郷土研究発表会紀要第22号としてまとめられています。

今回は、22班174名が参加されました。「地質」「植物相」「植生」「鳥類」「水生昆虫」「生薬」「栄養」「農村医学」「読書」の各班からは、班名の変った班もありますが、前回と同様のテーマの報告を頂いております。24年の時間を経てどのような変化が現れてきたのか興味深いところです。また、「郷土」「民俗」の各班は、前回とはまた変わった視点で報告を頂いています。

「淡水魚」「クモ類・貝類」「民家」「社寺建築」「考古」「史学」「地方史」「方言」「教育」「昆虫」「地理」の各班は初めて参加されました。これらの調査報告により、神山町の実態についてさらに詳しいものが得られたものではないかと思えます。神山町ではいま、町史の編纂が進んでいるとお聞きしました。今回の調査報告が、その一助になれば幸いです。

最後になりましたが、町全般にわたります学術調査に際し、町関係者のかたがたをはじめ、地域・団体のかたがたから多大の御支援、御協力を頂きましたことを心からお礼申し上げます。また、暑い中、天候のすぐれない日もあった中、真摯に調査くださり、この報告書をまとめてくださった学会員の皆様方に対しましても深く感謝申し上げます。